

矢 携 療 連 だより

榛名荘病院
Harunaso Hospital

第4号
季刊発行

日本医療機能評価機構認定病院

榛名荘病院の基本理念

- 一、生命を尊重し、安全で良質な医療を提供します。
- 一、患者様の意志と権利を尊重します。
- 一、医療技術向上のため、研鑽に努めます。
- 一、地域の医療、福祉のために寄与します。



企画発行：榛名荘病院医療連携室
〒370-3347 群馬県群馬郡榛名町中室田5989
<http://www1.newweb.ne.jp/wa/haruna/>

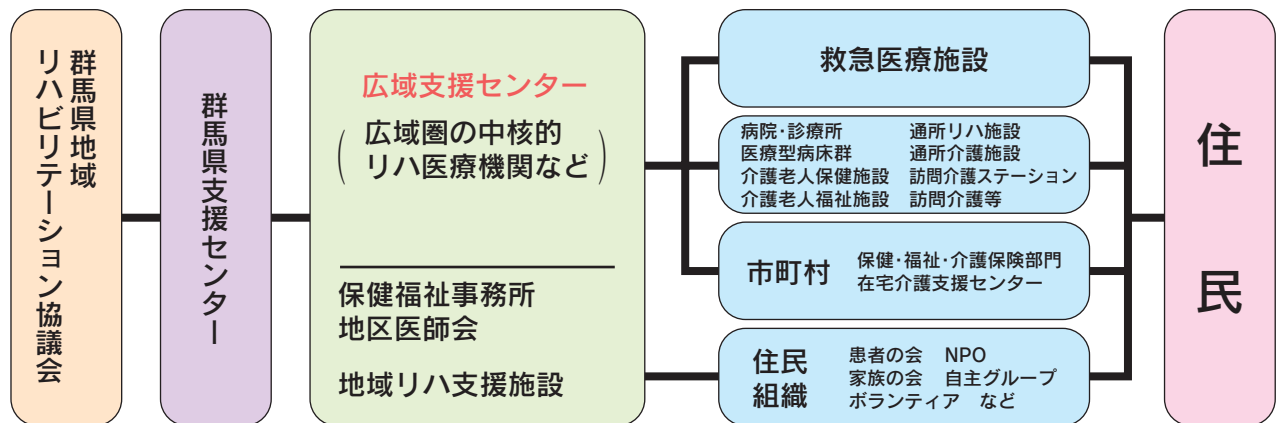
■榛名荘病院 総合リハビリテーションセンター 群馬県より「地域リハビリテーション広域支援センター※」に指定される

平成16年10月1日付で、榛名荘病院総合リハビリテーションセンター（管理責任者 久保田要医師、科長 新谷和文）は群馬県より「高崎・安中地域リハビリテーション広域支援センター（高崎市を除く安中・碓氷・群馬郡）」の指定を受けました。今後、地域におけるリハビリテーションの中核病院として各種研修・訪問指導・リハビリに関する相談等を行なっていく予定です。

今年度は摂食・嚥下障害に関するリハビリテーションの講演会、当院で実際行われている摂食・嚥下リハビリテーションの実践についての見学会等を行なう予定です。

※厚生省が進める地域リハビリテーション支援体制整備推進事業のひとつ

群馬県地域リハビリテーションの組織図



～ 保健・福祉・医療従事者のみなさまを対象に、各種研修・訪問指導・リハビリに関する相談を行います！～

- ◆講演会…リハビリテーション技術を習得するための講演会を開催します。
- ◆見学会…摂食・嚥下リハビリテーションの実践についての見学会を開催します。
- ◆実地訪問…ふだんリハビリで困っていることについて、専門医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が現場へ出向き相談・指導いたします。
- ◆電話相談受付
- ◆面接相談受付…電話相談の上、必要に応じて榛名荘病院にてより細かな相談・指導をいたします。

お問い合わせ先

医療連携室

(石井・布施・五十嵐)

027-374-2895

総合リハビリテーションセンター（新谷）

027-374-1135(代表)

私たち総合リハビリテーションセンターの取り組み



理念 当院でリハビリをされた患者さんがご自分の経験から書いてくださった言葉が当センターの「理念」となっています。

方針

1. 患者さんやご家族がより豊かな生活を送ることができるよう共に考え・支える
2. あかるい笑顔・ていねいな対応を心がける
3. 安全で質の高いリハビリテーションを提供する
4. 地域リハビリテーションの中核を担う
5. 臨床教育・臨床研究を通じリハビリテーション医療に貢献する

この「方針」を具体化するために、私たち総合リハビリテーションセンター・スタッフは下記のような努力をしています。

1. 研究 (学会発表 平成16年度)

<国際学会>

16年4月: Japan - Korea joint Conference on Rehabilitation Medicine 2004:日本リハビリテーション医学会主催 (京都)

Analysis of relationship between history of fall and Berg Balance Scales in frail elderly people
原田 亮 (理学療法士)

<国内学会> …主なものを紹介します

16年5月:第39回日本理学療法学術大会 (宮城)
「脳血管障害者における体幹機能障害が呼吸機能障害へ及ぼす影響」 新谷和文 (理学療法士)
「重回帰分析からみた高齢者転倒リスクとBerg Balance Scaleの関連」 原田 亮 (理学療法士)

16年9月:第10回日本摂食・嚥下リハビリテーション学術大会 (新潟)
「当院における摂食・嚥下リハビリテーションのチームアプローチ」 市川梨恵子 (言語聴覚士)
「頚椎ope後に嚥下障害をきたした一症例と今後の課題」 畠山尚文 (言語聴覚士)

16年10月:リハビリテーション・ケア合同研究大会北九州2004 (福岡)
「買い物練習の取り組み -当院における院外活動リハー」 町田観誠 (作業療法士)

16年11月:理学療法科学学術大会 (栃木)
「日常生活活動における自己管理能力に関する評価指標の信頼性と有用性」 奥木亜耶 (理学療法士)

2. 教育

スタッフで行う週2回の勉強会・症例検討会の他、平成15年度には、PT実習生10名、OT実習生6名、ST9名を受け入れました。また、今年度より群馬大学の理学療法卒後研修生を受け入れています。

3. 地域貢献

- (1) 高齢者筋力向上トレーニング事業
- (2) 高校野球群馬県大会スポーツトレーニング (メディカルサポートスタッフ)
- (3) 群馬大学への非常勤講師派遣
- (4) 地域で行われた講習会・研修会への講師派遣等にスタッフを派遣しています。



スタッフ数:専任医師2名、摂食・嚥下医師1名(非常勤)、理学療法士14名、作業療法士5名、言語聴覚士4名

回復期リハビリテーション病棟

～スタッフ一丸となって患者さんの家庭復帰・社会復帰をお手伝いしています！～

榛名荘病院には、回復期リハビリテーション病棟があります。

脳血管疾患・脊髄損傷・大腿骨頸部骨折等の患者さんに対して、ADL（日常生活を行う上で必要な動作）能力の向上のために次のような取り組みを積極的に行っています。

◇病棟ADL練習

入浴、排泄、食事、更衣、移動等患者さんの自立訓練を病棟で行っています。

◇社会生活リハビリテーション

買い物、公共機関の利用、屋外歩行、園芸活動、その他をとおして日常生活を自立に向けるための社会活動を行い、身体・精神機能の向上を図る。また退院後の余暇活動の充足を図ることを目的としています。



園芸



買い物



調理

◇家屋評価・改修

平成15年度実績：44件

患者さんの退院後の生活を可能な限り自立させ、ご家族の介助量を軽減するため「退院前訪問指導実施手順書」に基づいて行っています。

◇摂食・嚥下障害への取り組み

山川治歯科口腔外科医を中心に、言語聴覚士、栄養課、看護師、歯科衛生士等チーム医療で積極的に取り組んでいます。



屋外歩行

歴史 “リハビリの火を消さずに…” ～北関東初のリハビリテーション施設～

榛名荘病院リハビリテーションは、昭和40年、リハビリテーション施設起工式から2カ年計画で専門病棟の完成をみた。スタートは昭和41年、東京大学老年病学運動学教室から週1回の講習会や理学療法士紹介等の応援を受け、北関東初のリハビリテーション施設を設立。

昭和45年には家庭復帰・社会復帰を目指す患者さんのために「リハビリ食堂」を開設、同時に「調理研究」も進めてきた。その後、群馬大学の協力を得て人材確保（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等）を充実、開設以来リハビリを病院の重要部門と位置づけてきた。

こういった背景から「総合リハビリテーション」へと大きく発展、現在では、はるな脳外科、群馬脊椎脊髄病センターの術後患者さんへのリハビリテーション、摂食・嚥下リハビリテーション、嚥下食の検食等、積極的に取り組んでいる。

●人材育成と国際交流

榛名荘病院では、奨学金制度をリハビリテーション施設開設当初から導入（県下初）。さらに、平成11年5月より大邱大学（韓国）より研修生の受け入れを開始。財団・浜名敏白理事長は名誉博士学位、津久井院長は客員教授を授与されている。



▲大邱大学にて

第8回群馬脊椎脊髄疾患研究会開催

2004年9月11日(土) 前橋市

「群馬脊椎脊髄疾患研究会」が9月11日(土)、前橋市内のホテルで開催された(会長 群馬脊椎脊髄病センター清水敬親センター長)。

当研究会は、群馬県内の脊椎脊髄病診療の向上のために活動しており、複数施設の脊椎脊髄外科医が当番幹事を務めている。

今回は群馬脊椎脊髄病センター副センター長 笛木敬介医師が幹事・座長を務めた。

特別講演
「人工骨の脊椎疾患への役割」
 八戸市民病院 整形外科 科長 末綱 太先生
 座長 笛木敬介先生

- 特別講演 講師
末綱 太氏
- 群馬脊椎脊髄疾患研究会
会長 清水敬親センター長
- 座長
笛木敬介医師



第1部 症例検討会

榛名荘病院からは富越智美看護師、畠山尚文言語聴覚士、井野正剛医師、清水敬親センター長がそれぞれ症例発表した。



群馬大学飯塚陽一先生症例発表



清水敬親センター長

症例検討会では活発な意見交換が行われた。



質問する公立富岡総合病院松原圭介先生

第2部 特別講演

「人工骨の脊椎疾患への役割」



講師
八戸市立八戸市民病院
整形外科科長
末綱 太先生

講演会終了後、懇親会にて講師の末綱太先生、参加者が交流を深めた。



第53回東日本整形災害外科学会 2004年9月24日、25日 山形市



第53回東日本整形災害外科学会が9月24日、25日の2日間、山形市内のホテルで開催された。

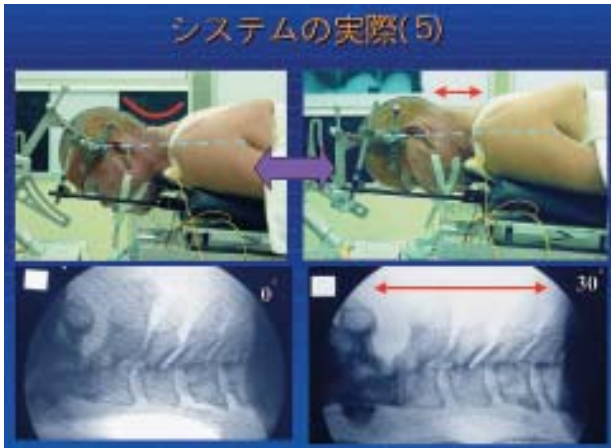
群馬脊椎脊髄病センターから3題の演題が採用。また清水敬親センター長がパネルディスカッションの座長に指名された。

(写真) 学会出席者 左より矢口佳美看護師、田内 徹医師、上原恵子看護師、富越智美看護師、笛木敬介副センター長、清水敬親センター長

* 一般演題 (2題)

頸椎後方手術の至適体位獲得に有用な頭蓋固定器の開発
～当センターにて考案した新しい体位用システムについて～
笛木敬介

頸椎後方手術を円滑に行うために考案した固定器具に関する発表。



頸髄症を呈した後環軸石灰化症の1例
田内 徹

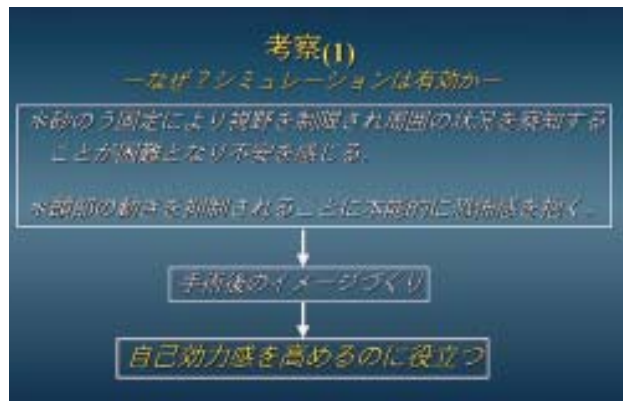
珍しい病態を呈した症例の報告。



* サテライト演題 (看護部門)

頸椎手術の術後せん妄への術前対策
— シミュレーションを導入して —
富越智美

高齢の手術患者が術後安静中に不穏状態に陥らないようにするための対策について発表した。



* パネルディスカッション

「関節リウマチ頸椎多関節障害の治療」

座長 星野雄一
(自治医科大学整形外科 教授)
清水敬親
(群馬脊椎脊髄病センター長)

清水センター長は関節リウマチの頸椎病変に関する治療の第一人者であり、豊富な知識と経験を生かして演者間の討論の司会を務めた。

「平成16年新潟県中越地震」

地震に遭遇した男性が頸椎脱臼骨折を受傷、 群センターにて頸椎手術を受ける

群馬県出身の男性が高速道路走行中に地震に遭遇、乗用車の自損事故となる。その際、頸椎の脱臼骨折を受傷。激しい頸部痛と左上肢の不全麻痺のため地元病院を受診するも混乱状態のため十分な診療を受けられず、診断がはっきりしないまま苦痛に耐えながら群馬に戻った。近医を受診して頸椎の脱臼骨折であることが判明、即日当センターに紹介転送となった。受傷後数日を経過していたが、放置することで新たな脊髄障害が起こる危

険性が高かったため、緊急手術で頸椎後方固定術を施行した。重度の頸椎損傷であったにもかかわらず、脊髄障害による麻痺症状が軽度ですんだのが、不幸中の幸いであった。

現在、頸部痛は改善し歩行障害はなく、頸椎カラーをつけて上肢機能中心のリハビリを行っている。震災による現地医療機関の混乱の大きさをうかがわせる出来事だった。

(群馬脊椎脊髄病センター)

51歳、男性

主訴：激しい頸部痛、左上肢の不全麻痺

●写真 頸椎X線写真



術 前



術 後



平成16年度逝去者慰霊祭

財団法人榛名荘では、11月19日（金）午前11時より榛名聖公会（榛名荘病院構内）で、過去1年（平成15年10月21日から平成16年10月20日）の間に当財団でご逝去された方々の慰霊祭を行いました。

厳粛な雰囲気の中、ご遺族のみなさま、病院関係者らが参列し、ご冥福を祈りました。

榛名荘病院看護部 初の学会発表

「第6回日本褥瘡学会学術集会（学術集会会長 医療法人社団 廣仁会褥瘡・創傷治癒研究所大浦武彦氏）」が9月3日、4日の2日間、札幌市で開催されました。榛名荘病院から2題の演題が採用されました。

●「褥瘡の原因調査に関する検討」

榛名荘病院看護部褥瘡対策チーム（高木君代、東山好枝、矢島小百合、唐沢奈津子、大熊篤子、外処重子、中里裕美子、中島伴江）、同外科褥瘡対策チーム（水口滋之）、同歯科口腔外科褥瘡対策チーム（山川治）。



中島伴江看護師、高木君代看護師

●「全身状態不良で多発性褥瘡を有した患者のチームアプローチの1症例」

榛名荘病院看護部褥瘡対策チーム（樋口かよ子、中島紀子、高橋るみ、丸山妙子）、同内科褥瘡対策チーム（松本宏美）、同薬剤科褥瘡対策チーム（門脇寛篤）、同歯科口腔外科褥瘡対策チーム（山川治）、群馬大学皮膚科学教室（根岸泉）。

「ねんりんピックぐんま」を応援！

財団法人榛名荘は、健康と福祉の輪が未来に向かって広がってゆくことを願い、10月16日から群馬県内で開催された「ねんりんピックぐんま」を応援・参加しました。榛名荘病院健康管理センターが「剣道交流大会」と「ゴルフ交流大会」の両大会で健康づくり教室を開催。実施内容は、骨密度測定、簡易血糖測定、血圧測定、肥満度・体脂肪測定で、利用者は16日（土）・219名、17日（日）・132名、18日（月）・104名と大盛況でした。



榛名荘66周年記念式を開催

10月20日、高崎市内のホテルで「榛名荘66周年記念式」が開催されました。式典では、榛名聖公会 木村直樹司祭によるお祈りから始まり、続いて浜名敏白理事長が榛名荘66年にわたる歴史について触れ、今日までの歩みを振り返りました。

恒例の永年勤続表彰では5年・10年・15年・20年勤続者が壇上へ上がり、浜名理事長より日頃の感謝を込めて表彰状が授与されました。



